



# 世界の ミカタタイムズ



発行：学校から世界のミカタを考える会

ムンムンシムシしてますね。ベトナムでは梅雨のことをムアムアと言うみたい。

## 風が吹けば桶屋が儲かる。日本が変われば...？

学校から世界のミカタを考える会（以下、ミカタ）は、地域に根ざした国際協力NGOです。

国際協力という言葉から最初に思い浮かべるのはどんなことでしょうか。例えばマザーテレサのように現地で困っている人に寄り添う活動をイメージする人が多いかも知れません。実際、ミカタに関わっているメンバーの多くは海外ボランティアなどの経験があります。しかし、ミカタは海外での直接的な国際協力活動をしていません。

写真：島の清掃活動

今回は国際協力のあり方について考え、私たちがESDや国際理解教育の実践及び普及活動に取り組んでいる理由と、なぜそれが国際協力だと信じるのか、例を挙げながら考えたいと思います。

団体内に、なぜか関わりが深い人が多い大洋州の代表的な課題を挙げると、環境問題、そして生活習慣病があります。写真で見ると美しく、楽園のような南の島ですが、脇道に入ると空き缶やペットボトルなど分解されないゴミが大量に散乱していて、そこに溜まった水が腐敗し害虫が繁殖する温床になっています。それだけでなく、動かなくなった車はそのまま雨ざらしになっていて、地域によっては注射針などの医療廃棄物も処理されずに捨てられています。また、伝統的な食文化が崩壊の一途をたどり、糖尿病や肥満が社会問題にまで発展しています。



そして、それらの課題を解決するために日本やアメリカ、オーストラリアなどの先進諸国から多くのNGOなどが入り、ボランティアや専門家が活動しています。これはイメージがしやすい国際協力活動の一つの形態で、これまでにミカタのメンバーの多くも携わってきました。

ところで「風が吹けば桶屋が儲かる」のことわざをご存知かと思いますが、例えば大洋州において「風」はどこから吹いているのか考えてみましょう。要するに地域が抱える課題の出どころです。

大洋州の伝統的な生活にゴミの問題などありませんでした。椰子の実やパンの実、そしてバナナの皮は捨てればすぐに分解され豊かな土壌に変わっていました。また水産資源にも恵まれた島々の男たちは皆、偉大な漁師であり、肥満や糖尿病とは無縁の生活を営んでいました。

そうです。ゴミも病気も外から持ち込まれたものなのです。現地にゴミの処理をする準備があるかどうかとは無関係に、島には次々に缶詰やペットボトルが持ち込まれます。「欲しがっているから売っているんだ。何が悪い?!」そんな声も聞こえてきそうですが、CSR（企業の社会的責任）について、ここ日本でもかなり意識されるようになってきました。しかし、国外に対する私たちの目はどうでしょうか。途上国で見かける車の多くに日本メーカーのエンブレムが付いています。中古の日本車は途上国で飛ぶように売れます。日本の排気ガス規定で手放した車が同じ地球上の別の地域で今も走っています。あなたが乗っていた車がもしかするとどこかでゴミになっているかもしれません。

現地で活動をしていた時に感じた違和感。風が吹いた先の困っている人を助けるのも大事だけれど、そもそも風の出元である私たちの考え方を変えなければ国際協力は成し得ないのではないか。

そんな思いを胸に、私たちは持続的な社会の創り手を育てるための国際協力活動をしています。

教えてちよっただけ!  
国際理解教育入門

ファシリテーションって何?(その4)  
聞き方のコツ。

話をしている時に、本当に自分が話したいことを伝えられていますか?準備をして挑むスピーチなどの場合を除いて、話し手は自分の話している内容や考えに対して無自覚です。だから、ファシリテーターはアクティブリスニングを身につける必要があります。アクティブリスニングとは話し手が伝えたいことを話し手以上に理解し、引き出すための技法で、ファシリテーションを行う上で非常に重要になります。

「カレーが食べたい」

こんな発言をした人に対してアクティブリスニングをすると面白いことが起きます。多くの場合、発言は表面的です。アクティブリスニングの方法は簡単です。話し手から直接語られなかった部分について質問をするだけです。

「いつ食べたいと思ったの?どんなカレーが食べたいの?どこのカレーが食べたいの?誰と食べるの?」

こんな質問をすれば相手はきっと自分がそんなに考えた上で「カレーが食べたい」と発言した訳ではなかったことに気づくと思います。そして、質問に答える中で発言の背景について話し手も聞き手もより深く考えることができるのです。

例えば、カレーが食べたい訳ではなくて「ガッツリ食べたい」と思っただけでご飯ものならなんでもよかったかもしれないし、たまたま前日にカレーの番組をテレビで見ただけかもしれないし、もしかしたらカレーは口実で「一緒にご飯を食べに行こうよ」と言いたかったのかもしれないですね。

※注意※

「カレーを食べたい」と言う人にアクティブリスニングは危険です。間違いなく、めんどくさいやつと思われて友達が減ります。用法用例を守って楽しく有益なアクティブリスニングを実施しましょう。

次回は発問の種類について掲載する予定です。お楽しみに。

ミカママンガ  
美を追求する国



今月の写真

これはどこでしょう?



賑わいが聞こえてきそうな風景です。どこの街でしょう。

紙面の都合上サイズが小さくなっていますので、大きな写真は世界のミカタのホームページでご確認ください。

お子さんの睡眠時間は足りていますか?

実は、日本の子どもたちは睡眠時間が短いのです。ハーバード大学のとある研究者によって推奨されている睡眠時間は、新生児14-17時間、乳児12-15時間、幼児11-14時間、就学前児童10-13時間、学童9-11時間、前思春期8-10時間。日本の子どもの平均睡眠時間は上記推奨時間を2時間前後下回っているようで、子どもたちのイライラや注意散漫はこれと無関係ではないそうです。睡眠不足の子どもの状態はお酒を飲んだ後のほろ酔い状態に似ているとか。ニュージーランドやオーストラリア、スイスなどでは、遅くとも夜は7時ごろ入眠させるのが常識…「寝る子は育つ」とよく言いますが、睡眠の重要性を多くの国が認識し、必要睡眠時間を守っているのです。私の娘は9時就寝7時起床。お昼寝を足しても世界レベルで見るとギリギリです。



ちなつママの  
グローバル子育て日記